

結婚式次第

乃木神社

参進 雅楽の演奏の中、神前に進みます。

修祓の儀 神道・神社では清浄を尊びます。身も心も清らかにし、儀式にのぞみます。(神社参拝の前に手水を使うのも同じ意味があります。)

齋主一拝 儀式開始の旨、一同齋主にあわせ神前に一拝(一礼)します。始まりの挨拶です。

祝詞奏上 今日の良い日を迎えられたことを感謝しつつ、良き夫婦であることを誓い、神様に見守って頂くことを、お二人に代わり齋主が大和言葉で奏上します。

三献の儀 三三九度の盃をとりかわします。神前にお供えしたお神酒を同じ盃でいただくことによって、夫婦の契りかわします。(神様と二人が同じお酒を頂きます。)

誓詞奉唱の儀 今日の良い日を迎えられたことを感謝し、末永く良き夫婦であることを誓います。

玉串奉奠の儀 玉串(神の枝に紙垂をつけたもの)に二人の思いをこめて神前にささげ拝礼します。

指環の儀 指輪の交換をします。

舞楽奉納 納曾利舞を奉納します。夫婦の龍が湖面でたわむれる様を舞いにしたものです。

親族盃の儀 ご両家一同神酒をいただき、今日より親族となることを結び固めます。

齋主挨拶 齋主の挨拶、ならびに御守・記念品を授与します。

齋主一拝 儀式修了の旨、一同齋主にあわせ神前に一拝(一礼)します。終わりの挨拶です。

退下

ワンポイントアドバイスと注意事項

神前挙式

現在のような形で神社・神前で挙式が行われるようになったのは明治時代からですが、人生儀礼を神社で行う風習は古くからありました。有名な源氏の《八幡太郎義家》は八幡神社の神前で元服（成人）の儀式を行いました。また、一般には神社ではなくても家庭の床の間に神様をお招きして神前挙式が行われてきました。親しい仲間だけでなく神前に誓うということに意義があります。

媒 妁 人

媒妁人をたてるのが本義ですが（日本の良い風習です）、親しい方に立会人となっていたりするのも一つの方法です。

出 席 者

出席していただくのは親族に限りません。ご来賓、ご友人の席も用意いたします。

三 献 の 儀

巫女が盃を差し出します。一番上の盃を両手で取って下さい。三回に分けてお神酒を注ぎます。同じように三回で飲み干して下さい。形だけで、実際に飲み干さなくてもかまいません。特に新婦様は打掛の重みで手が上がらない場合があります。

誓 詞 奉 唱

あらかじめ乃木神社で作成した誓詞をご用意しますが、お二人の言葉で誓詞を作っても良いでしょう。ほとんど新郎様がお一人で奉唱されますが（新婦様は名前だけ奉唱）、お二人声をあわせてお読みになるのも感激的です。

玉 串 奉 奠

巫女が玉串（神の枝）をお二人に手渡します。時計まわりに向きを変え、根元を神前に向けてお供えます。寄り添うように中央にお供えして下さい。二拝（礼）二拍手、一拝（礼）の作法で拝礼して下さい。（神職がそばで一緒に拝礼いたします。）

正式には九十度の角度で拝礼しますが、なれない衣裳をお召しになっていますので、軽く腰を折る程度でかまいません。拝礼の数を重ねるのはより丁寧さを、拍手は喜びを表します。

指 環 の 儀

式次第からはずしてもかまいません。披露宴の中でお色直しの後になさるのも良いでしょう。

参 進 ・ 退 下

新郎様は緊張の為に先先に進みがちです。エスコートする気持ちで並んで歩いて下さい。

注 意 事 項

挙式中の撮影（カメラ・ビデオ）はご遠慮いただいております。挙式の撮影を希望される方は、乃木會館の営業スタッフにお申しつけ下さい。専属カメラマンが撮影させていただきます。